

第6回 江東未来会議

(第2分科会：産業・生活分野)

次 第

日時：平成20年1月28日(月) 午後7時00分～9時00分

場所：江東区文化センター2階 旧区政PRコーナー

1 開会

2 事務局からの連絡事項

- ・ 江東未来会議発表会の実施について
- ・ 提言の発表者決めについて
- ・ 江東未来会議 参加者感想シートの提出について

3 ワークショップ

- ・ 分野別提言書(案)の内容について

4 その他

5 閉会

(配付資料)

- 第5回江東未来会議 議事概要
- 江東未来会議提言書(産業・生活分野部分)
- 江東未来会議提言書(冒頭部分・参考資料)
- 江東未来会議発表会 実施要領
- 江東未来会議 参加者感想シートの提出について

江東未来会議
第2分科会（産業・生活分野）
第5回 議事概要

日時：平成19年12月19日（水）19:00～21:00

場所：江東区文化センター2階 旧区政PRコーナー

参加人数：22人

1. 開会

2. 事務局からの連絡事項

3. ワークショップ

（1）グループ別作業・討議

前回に引き続き、「産業・消費生活グループ」「コミュニティグループ」「文化・観光グループ」の3つのグループに分かれ、

- ・区の役割と必要な施策（新しいしくみ等）の提案
 - ・市（区）民・市民団体、事業者にできること、新しいアイデアの提案
- について、検討を行った。

【作業結果】詳細は別紙（「第5回江東未来会議 産業・生活分野」グループ討議結果）参照

（2）発表

【発表】

○文化・観光グループ

- ・テーマは「観光立区」とした。ただし、江東区単独では限界があるので、墨田区、中央区、文京区など近隣区との連携が大切である。
- ・政府は平成20年10月に観光庁を創設することを決定した。江東区では、現在、経済課の中に商業観光係が設置されているが、観光課を創設してもらいたい。
- ・国外の観光をみれば、フランスでは国外から年間8,000万人の外国人が訪れるが、日本人は600～700万人に留まっている。人口比で見れば、1億5千万人ぐらいの外国人が日本を訪れてよく、まだまだ増やしていく余地がある。観光ガイドをしている人の話を聞くと、外国人の中で江東区を見たいというニーズが増えているそうである。
- ・江東区には地域振興をテーマとした江東区地域振興会があるが、観光についても、民間サイドの組織として、観光ガイドシステム、観光講師、旅館など観光施設への指導を行う観光振興協会を立ち上げてほしい。

- ・観光教育システムとして、小中学校で観光教育を実践してほしい。カリブ海諸国では、小学校から観光教育を徹底しており、国外からの観光客に対する観光ホスピタリティを養っている。
- ・「地域観光のまちづくり」は、行政ではなく地域ごとに皆が手作りで取り組まなければ成り立たない。地域観光を教育していくためのツールとして、江東区の歴史カレンダーや観光ガイドを提案したい。

【質 疑】

○参加者

- ・農林水産省の「農山漁村の郷土料理百選」に、東京都からは「深川井」が選ばれていた。深川を代表するものとして歴史カレンダーに加えるとよい。

○参加者

- ・江東区には、歴史的な経緯から深川観光協会と亀戸観光協会の2つの観光協会が存在する。歴史カレンダーづくりは、これら2つの観光協会を江東区として1つにまとめ、つなげる取り組みとしての意義もあるだろう。

○参加者（文化・観光グループ）

- ・提案している観光振興協会は、全体を統合する連合会的な組織として創設したいと考えている。それぞれの地区レベルは支所・ランチとして組織化するイメージである。
- ・地区の上に連合会的な組織がなければ、地区ごとにばらばらなままでは区全体としては伸びないだろう。
- ・墨田区歴史カレンダーが本屋で販売されている。また、墨田区は、毎年新しい文化財ガイドを発行している。江東区は観光面では遅れているので、他区の取り組みも参考にしつつ、江東区オリジナルの取り組みを展開していく必要がある。

【発 表】

○コミュニティグループ

- ・前回、指摘のあった町会については、本日は町会参加者が欠席のため議論できていない。
- ・「コミュニケーション」という流れの中で、様々な年齢層の視点から幅広いテーマに対して提案を行っている。
- ・「マンション自治会と町会」のテーマに関しては、地域の町会、自治会等の協力による場づくりや、区からの情報を掲示するフリースペースを提案している。その中でも高齢者、子供等が集まる場づくりについて提案している。
- ・場づくりについては、コミュニティグループ内にも、「創年（高齢者）のたまり場」の活動に携わっている参加者もいれば、就学前の子どもがいて、子育て情報の提供など子育ての支援を希望する参加者もいる。また、地域におけるコミュニケーションを図ってい

くためには、普段の話し相手や相談にのってあげることも1つの仕事と捉え、座談会やあいさつ運動を提案している。このように、コミュニティグループでは、コミュニケーションはコミュニティの基本であると考えのもと、多少総花的でも分野に捉われない幅広い提案を行っている。

- ・災害発生時の区はどうしてくれるのか、という疑問のほかに、区・警察・消防・病院の災害発生時の関係や、区民はどのような行動をするべきか、また、マンション自治会や町会の役割や、どこにも所属していない区民はどのようにすればよいか、不安がある。ただ、広域避難場所を掲示するだけでは十分でない。都心部では災害時に歩いて帰宅するイベントなどもみられるようだ。
- ・異世代交流の場としての「プレーパーク」の実現に向けては、プレーパークの社会的意義を認識し、行政と区民がパートナーシップを築ける支援体制（条例作り等）の整備や、プレーパークに関する検討会を区が開催する、といった提案が出た。
- ・区の施設並びに公的機関（病院）については、区の計画として人口動向をふまえた計画配置を行ってほしい。
- ・子育て応援については、サークル、集まりの場のPR宣伝をもっとアピールしないといけない。
- ・「創年（高齢者）のたまり場」については、住んでいる地域では顔見知りがあるので参加しにくいといった意見や、伝言版、ホームページだけではなく、個人の活動を簡単に紹介できる掲示板やブログなど簡単に意見を出せる仕組みが必要との意見もみられた。

【質 疑】

○参加者

- ・「創年（高齢者）のたまり場」の「創年」とは「壮年」を指すのか。

○参加者（コミュニティグループ）

- ・「創年」とは、地域のために自らの力を発揮し、創造的に生きる大人（中高年）を指す造語である。

○参加者

- ・町会によっては、総会が呼びかけて65歳以上のいる世帯を登録しているところもみられる。これにより、災害時に助けを求めやすくなる。

○参加者

- ・マンションに対する行政や町会の働きかけが少ない、といった意見があるので、行政がマンションに対する働きかけを拡大していくことが重要となろう。

○参加者（コミュニティグループ）

- ・中央区はマンションの補修・修繕費を助成している。江東区はマンションに対する取組が遅れている。

【発 表】

○産業・消費生活グループ

- ・江東区は、情報の発信基地としての「空」、東京湾に面するという「海」、交通、物資輸送の拠点としての「陸」と陸海空の立地が揃っており、伝統的に、輸送業や、木場の木材、深川の印刷業、亀戸・大島を中心とした江戸切子などの伝統産業などの様々な特徴的な産業が集積していることを共通認識として議論をスタートした。
- ・産業を活性化していくためのキーワードとしてまず「区産区消」が挙げられる。つまり「区民」、「区内企業」が区内で消費支出を落していくことが必要である。
- ・また、区内には芝浦工大や東京海洋大学などの大学も立地しており、区内の人口も増えていることから、両者を近づけることによって新しいアイデアが生み出される可能性がある。産業の起爆剤となるのはオリンピックの開催であり、区長も積極的であることから支援した方がよい。
- ・江東区の産業について SWOT 分析してみると、「強み」として、伝統ある中小企業が多いことや、人口増加傾向（都心回帰）が挙げられる。一方で、「弱み」として競争力ある産業が少ない、全般的に商店主の高齢化が進行していることが挙げられる。
- ・「機会」としては、IT企業が多く所在すること、オリンピック誘致や築地市場移転の話が挙げられる。また、「脅威」としては、近郊ビックモールが増加しており、消費が流失していることが挙げられる。消費の中心が区外にとられており危機感もある。
- ・区民が区内で消費を落していくためには、区内のIT企業を地域の土俵に乗せることが重要ではないか。大企業はポイ捨て禁止キャンペーンなど地域活動に参加しているが、地域住民にあまり知られておらず、地域に貢献しても還元されていない。このため、大企業、中小企業も区民も地域活動がポイント化され、蓄積されフィードバックされるような仕組みが必要との意見も出た。
- ・区民や中小企業では取り組めないIT化の部分においては、区内企業間の受発注を促進するプラットフォームを区が主導してIT企業の協力を得てつくってはどうか。中小企業間のニーズのミスマッチを解消し、うまくコーディネートするような機関も必要である。
- ・大企業のCSR（社会的責任）が求められる中で、大企業の環境や地域への貢献をきちんと評価し、地域、住民、商店街との接点をつくり、大企業も地域産業の活性化に向けて役割を持たせるようにしていきたい。

【質 疑】

○参加者

- ・産業・消費生活は商店街の衰退と関わりが大きい。商店街の中での生き残りよりは、第三者的な立場の人が商店街にどのような役割が求められているのか提案してもらおうと大変参考になるので、商店街の衰退を食い止めるための提案を出してほしい。また、消費

者の生活スタイルも細分化されており、商店街の開店時間では対応しきれないケースが増えている。生活スタイルについても合わせて出してもらえると有難い。

○参加者（産業・消費生活グループ）

- ・「衰退を食い止める」というと暗いイメージがあるので、例えば、ITを利用して閉店後も注文を受けられるような仕組みなど新しい環境を提案していきたい。

4. その他

○事務局（コンサルタント）

資料「江東未来会議提言書の作成に向けた今後の進め方について今後の進め方」「江東未来会議提言書の構成（案）」について説明が行われた。

○事務局（区）

- ・次回は、1月28日（月）19～21時で開催予定である。

（以上）

目標：水彩都市江東のにぎわい (観光立区・周辺区との連携)

仕組

- ① 観光課設置
(プロジェクトチーム)
国内観光係 ← 国交省官公庁との連携
国外観光係
- ② 江東区観光振興協会
観光ガイドシステム・観光コースづくり
- ③ 観光教育システムづくり
 - ・小学校・中学校
 - ・地域観光まちづくり
 - ・歴史カレンダー

No	テーマ	提案
①	区からの行政サービスはどの様に? マンション自治会と町会	<p>フリースペースとして場をつくり、区の情報掲示</p> <p>高齢者、子供等いろいろ集まる場づくり</p> <p>災害時のためのコミュニケートと、安心のために、 ↓ 1. 行政(区) 2. 消防 3. 警察 4. 社協 5. 区民の総合パネル 会議を提案します。 コミュニケートされた減災活動を期待し</p> <p>場づくりの広告を地域の町会、自治会等 宣伝 協力必要</p> <p>あいさつ 声かけ運動</p> <p>月に一度区民の座談会をひらけばどうでしょうか?</p>
②	消費者センターへの情報提供の活動	
③	異世代交流の場としての“プレーパーク”の実現	<p>プレーパークの社会的意義を認識し、行政と区民がパートナーシップを築けるような支援、条例作り</p> <p>プレーパーク事業に関する条例作り すでにある自治体として、世田谷区、国分寺市、渋谷区 熊本市、草加市など</p> <p>プレーパークに関する検討会を区が開催する</p>
④	区の施設並びに公的機関(病院)	<p>区の計画として人口動向をふまえ計画配置</p>
⑤	子育て応援(就学前の子供)	<p>サークル、集まりの場のPR 宣伝をもっとアピールしないとイケない。</p> <p>子供110番て? 助けてほしい時はどこにとびこんでもいいのではないかな?</p> <p>大型スーパーなどに協力してもらおう。PRとか。</p>
⑥	①+④ 災害発生時の関係は? 区・警察・消防・病院	<p>災害発生時に区民はどのような行動をするべきか 又、マンション自治会や町会の役割 又、どこにも所属していない区民は?</p> <p>ガイド(広報)</p>
⑦	③「創年(高令者)のたまり場」	<p>場づくりで活動している場所等 多くの人達に 広告してほしい!!</p>

産業・消費生活グループ（情報共有まとめ資料）11/29作成のものに加筆
 <産業>

1. 陸海空が揃う立地条件
 - ・「陸」：京浜、京葉の陸路流通拠点
 - ・「海」：国際港東京港
 - ・「空」：ビッグサイトやテレコムセンターなど文化、情報の発信基地
2. 江東区産業の特色
 - ①繊維、ガラス（江戸切子）、印刷、金属、機械、木材、運送、物流産業など
 →工業団地的発想がないため、店舗がバラバラで活力があまりない
 →業種間、同業者間での結びつきが弱い
 →国際競争力や特色を持った産業が少ない（競争力がない）
 - ②東陽町、豊洲に情報関連産業、湾岸地区に物流関連産業が集積
 →今後ITの活用がキーとなるため、良い条件と考えられる
 →特に大企業は、区外に移転しないよう、定着化の方策が必要
 →地元中小企業のIT活用活性化が必要
 - ③区内の4つの大きな商店街（深川、亀戸、大島、砂町）
 →商店街間のコミュニケーションが良いとは言えない
 →活性化、商店の継続性については共通な課題がある（シャッター通り現象）
 - ④産学連携をとれる立地がある（芝浦工大、東京海洋大・豊洲キャンパス）

<将来像を検討する上でのキーワード>

- 「陸海空」（立地）、「区産区消」（地産地消）、「学職接近」
 外せないキーワード：環境配慮型ビジネス展開、高齢化対策、オリンピック（2016年？）
 ※2016年のオリンピックは環境問題が世界的なテーマの中開催（？）
 ※環境先進都市が世界的に脚光を浴びる可能性大
 従って江東区が国際的に注目されるチャンス！
 支える仕組み：IT化（江東区が先進事例をつくるのが重要）

<地域の特性にあった産業エリアの設定>

- ①テーマ性を持った誘致活動（都市計画のビジョンが必要）
 - 若い人が興味をもって入りやすく継続性のある産業の育成
- ②主体間の関係の強化
 - 商店街における中小企業・IT企業・学生との連携による地域モデル
 まちづくりの実践（行政リーダーシップ、地元の危機感・当事者意識）
 - 仮想商店街、学生参加の事業アイデア
- ③4つのおおきな商店街の活性化（それぞれにテーマを持って商店街ぐるみの施策展開）
- ④ビックモールの拡大も多様な集客効果
 豊洲など、新しいビックモールの大手スーパーは企業中心に拡大

<消費生活>

1. 都心近郊、就業地と居住地が近い
 →昔はベッドタウン、今は“ライフワークバランス”がキーワード
 ※「労働時間や家庭で何かを犠牲にすることなく元気に楽しく暮らす」という考え方
2. 人口増に比例して消費拡大見込み（年間1万人増）
 →比例して増加する可能性は低い（増加する年齢層に分析が必要）
3. 銀座、日本橋、大手町などに消費の流出
 →都市中心部への利便性がマイナスになる
4. 世代にあった利便性の追求が必要
 →高齢者、共稼ぎ夫婦の消費利便性の要素が必要
5. 契機となるイベント
 (08) 江東さざんかカード導入
 (12) 築地市場移転？

産業・消費生活グループ

大手企業：
 NTTデータ、大和総研、明治乳業、IHI（旧石川島播磨）、トステム、日本ユニシス、パラマウントベッド、NECソフト...

IT企業：
 年商50億以下 34社、50億以上 26社（帝国CD）

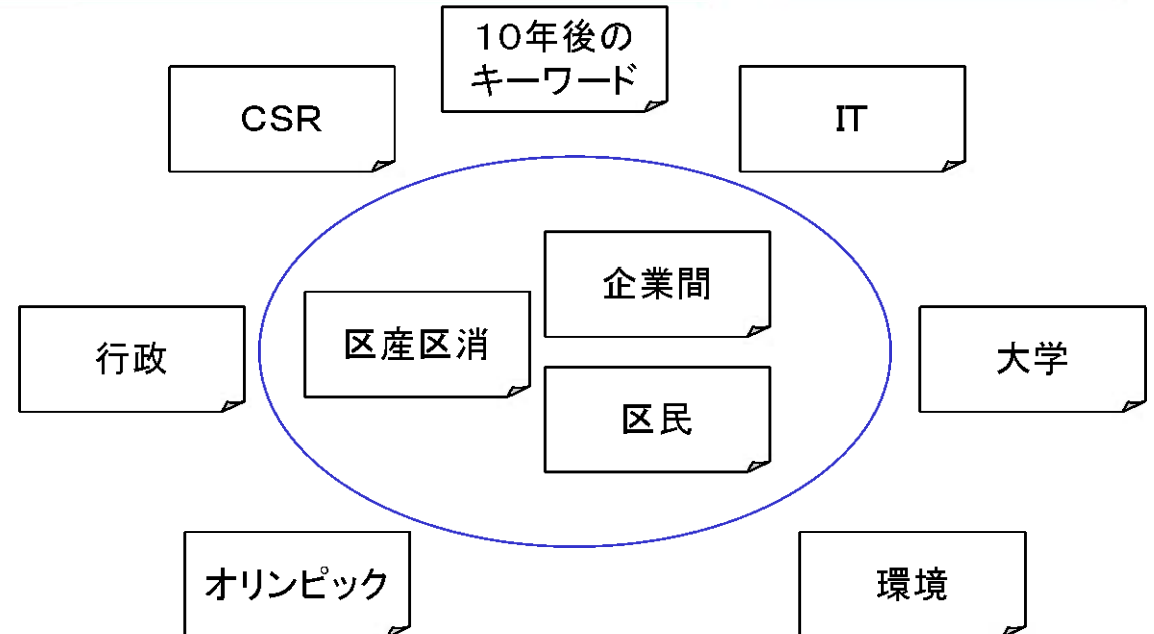
SWOT分析をしてみる（産業・消費生活）

	強み	弱み
内部	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統ある中小企業が多い ○人口増加傾向（都心回帰） 	<ul style="list-style-type: none"> ○競争力ある産業が少ない ○商店主の高齢化が進行
外部	<p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○IT企業が多く所在する ○オリンピック誘致話がある 	<p>脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近郊ビックモールが増加 ○ビックモールに消費流失

第5回産業・生活分科会 グループ討議結果

SWOT分析から戦略方針

区分	戦略・方針
強み	強い中小企業を支援
弱み	多様性でカバー（群れ）
機会	オリンピックで一致団結
脅威	ビックモールと戦わない



II. 産業・生活分野（第2分科会）

第2分科会（産業・生活分野）の検討テーマは、産業・消費生活・観光、コミュニティ、男女共同参画、生涯学習、文化・スポーツと多岐に渡っていますが、特に、地域特性を活かした産業振興や消費生活の多様化への対応の必要性、近年の人口増加や高齢化の進行などによるコミュニティの変化への対応の必要性、豊富な文化資源を背景とした観光振興の取り組みの重要性を考慮して、大きく「産業・消費生活」「コミュニティ」「文化・観光」を検討テーマとして取り上げることとしました。

1. 現状および問題認識

（1）産業・消費生活

「産業・消費生活」の現状および問題認識については、SWOT分析*で用いられる「強み (Strengths)」、「弱み (Weaknesses)」、「機会 (Opportunities)」、「脅威 (Threats)」の4つの項目に分けて整理しました。

※SWOT分析：目標を達成するために意思決定を必要としている組織や個人の、プロジェクトやベンチャービジネスなどにおける、強み (Strengths)、弱み (Weaknesses)、機会 (Opportunities)、脅威 (Threats) を評価するのに用いられる戦略計画ツールの1つ。組織や個人の内外の市場環境を監視、分析している。

<強み (Strengths)>

■江東区の産業立地の特徴は、「陸」「海」「空」が揃っていることです

- ・江東区の立地面の特徴として、「陸」「海」「空」が揃っている点が挙げられます。
- ・「陸」の面では、京浜、京葉の陸路のハブとして流通拠点となっています。
- ・「海」の面では、海運物流拠点としての東京港があります。
- ・「空」の面では、ビッグサイトやテレコムセンターなどが、文化、情報の発信基地となっています。
- ・江東区の産業の活性化を考える際には、こうした「陸」「海」「空」が揃う立地面の特徴を活かしていくことが重要です。

■区内には、繊維、ガラス（江戸切子）、印刷・製本など特色ある産業の立地がみられます

- ・江東区には、繊維、ガラス（江戸切子）、印刷・製本、金属、機械、木材、運送、物流産業等の特徴的な産業が立地しています。特に、ニット産業の事業所は、江東区、墨田区、江戸川区の3区で、東京都の約80%を占める代表的な産業となっています。

■都心に近く、大学の立地もみられ、学職住の交流、産学連携の体制が取りやすい環境となっています

- ・江東区では、人口増加（都心回帰）が進行しています。都心にも近く、就業地と居住地の間が比較的近いため、「学職住」の交流を進めていきやすい環境にあります。
- ・区内には、芝浦工業大学、東京海洋大学が立地しており、産学連携の体制が取りやすくなっています。

<弱み (Weaknesses) >

■業種間、同業種間の結びつきが弱く、国際競争力を持つ産業が少なくなっています

- ・臨海部の輸送業や、木場の木材、深川の印刷業、亀戸・大島を中心としたガラス産業（江戸切子）など、地域との結びつきが強い業種もみられます。
- ・しかし、各産業は、業種間、同業種間の結びつきが弱く、大田区のように国際競争力のある特色を持った産業が少なくなっています。

■高齢者や共稼ぎ夫婦の買い物利便性の向上が求められています

- ・商店街では、店主の高齢化が進行しています。
- ・商店街の開店時間は、共稼ぎ夫婦の世帯が求める買い物時間帯と合っていない場合が多くなっています。
- ・また、今後、買い物に出づらくなる高齢者が増加していくことから、高齢者が身近な地域で買い物ができる利便性の高い買い物環境が求められています。
- ・江東区には、深川、亀戸・大島、砂町など規模の大きな商店街が立地しています。また、平成20年度には、江東さざんかカード*の運用が予定されています。こうした立地面の特徴と機会を捉え、商店街における消費者の生活スタイルに合った新しい仕組みの提案が求められています。

※江東さざんかカード：中学生以下のお子さん、妊婦、65歳以上の高齢者、手帳をお持ちの障害者の方々に、区が「江東さざんかカード」を配布し、カードをお持ちの方に、協賛店が割引等の特典を提供する事業。平成20年4月からの事業スタートが予定されている。

<機会 (Opportunities) >

■東京オリンピック開催や築地市場の移転は、地域産業活性化の起爆剤になります

- ・江東区では、今後10年の間に、東京オリンピックの開催や、築地市場の移転といったビッグプロジェクトが予定されています。これらのプロジェクトを、地域産業活性化の起爆剤としていくことが必要です。
- ・築地市場の移転を契機として、多くの関係者や買い物客が江東区に流入してくること

が見込まれます。これらの流入層の区内での消費活動を促進していくための仕掛けづくりが重要となります。

■IT企業の進出は、既存産業の活性化の機会と捉えられます

- ・近年、IT企業が東陽町、豊洲に進出しており、情報関連産業の集積がみられます。情報化の進展を踏まえると、今後は、ITの活用が遅れている中小企業など既存産業と、IT企業との結びつく機会と捉えることができます。

<脅威 (Threats) >

■区民の消費活動が区外や近隣の大型ショッピングセンターに流出しており、区民や区内企業による区内での消費活動を促進していくことが必要です

- ・都心に近いという立地特性のマイナス面として、区民の消費活動が銀座、日本橋、大手町など区外に流出している実態が挙げられます。こうした区外への消費活動の流出を防ぎ、区内産業の活性化を図っていくことが必要です。区民や区内企業による区内での消費活動を促進していくことが必要です。
- ・近隣地域に、大型ショッピングセンター（モール）が増加し、消費の中心が、既存の商店街からこれらの施設にとられており、商店街を中心とした危機感につながっています。

表 江東区の産業のSWOT分析

	強み	弱み
内部	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統ある中小企業が多い ○人口増加傾向（都心回帰） 	<ul style="list-style-type: none"> ○競争力ある産業が少ない ○店主の高齢化が進行
	機会	脅威
外部	<ul style="list-style-type: none"> ○IT企業が多く所在する ○オリンピック誘致話がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○大型ショッピングセンター（モール）が増加 ○ビックモールに消費流失

(2) コミュニティ

■地域のコミュニケーション能力の弱体化が懸念されます

- ・町会・自治会参加はコミュニティの基本になるものです。例えば、町会・自治会に参加していないと、子どもの祭りに参加するにしても必要な情報や支援が得られない場合があります。
- ・区民は町会・自治会に参加することで、区からの情報提供などの支援が得られますが、新しいマンションが増えた江東区では、マンションの自治会組織や町会加入が進まない面もあり、町会・自治会の加入率は漸減傾向*にあります。その結果、地域のコミ

コミュニケーション能力の弱体化が懸念されます。

- ・町会が、本来持つべき地域コミュニティの仲介的な機能を十分に果たしているかどうか検証が必要です。

※町会・自治会加入率：加入世帯数／全世帯数。

町会・自治会加入率：74.9%（平成9年1月1日）→64.9%（平成19年4月1日）

世帯数：157,336世帯（平成9年1月1日）→209,165世帯（平成19年4月1日）

■高齢化の進展や災害時などのもしもの時の助け合いのために、普段からのおつきあいやつながりがますます大切となっています

- ・町会・自治会活動には、町会・自治会として認められ区から何らかの便益を受けることだけでなく、高齢化が進む中で、もしもの時の助け合いのために、普段からのつながりの基盤となることが求められます。
- ・例えば、東陽町駅の1日あたり乗降客数は12万人にのぼり、大規模災害が発生した時には大量の帰宅困難者が発生する可能性があります。そのような時は、近隣マンションの空きスペース（1階エントランスホールや廊下部分など）を提供するなど、近隣のマンション全体で助け合えるような体制が必要です。

■世代間のコミュニケーションの場が必要です

- ・高齢者が自分の経験を子どもたちに教える場など、世代間のコミュニケーションを図る場が必要です。こうしたコミュニケーションを図る場として、学校や商店街の空き店舗の活用が想定されます。
- ・子育ての視点からは、プレーパーク*があれば、子どもを持つ家庭同士でのコミュニケーションも図られ、様々な交流の輪が広がります。

※プレーパーク：既成のブランコ、シーソー、鉄棒などがあるような公園と違い、子どもたちが想像力で工夫して、遊びを作り出すことのできる遊び場。別名「冒険遊び場」とも呼ばれ、ヨーロッパを中心に1950年代あたりから徐々に増えてきたもので、日本では、1979年に開園した羽根木プレーパーク（東京都世田谷区）が最初のものになる。羽根木プレーパークでは、大人のプレーリーダーが常駐しており、子どもたちは、このプレーリーダーの助言の下、廃材や古タイヤを使って秘密基地を作ったり、木に登ったり、地面を掘り返したり、焚き火などの遊びを行うことができる。

（3）文化・観光

■国による国際観光の取り組みを受け、江東区も観光振興に向けた対応が求められています

- ・フランスには、年間約8,000万人の外国人が訪れていますが、日本を訪れる外国人観光客は600～700万人に留まっています。観光庁の創設（平成20年10月予定）など、国による国際観光の取り組みが強力に推進されており、今後、日本を訪れる外

国人観光客は増加していくものと見込まれます。

- ・このため、江東区としても、海外から来た人にもわかりやすいグローバル化に対応した環境整備が必要とされています。

■江東区は、歴史・文化資源は豊富ですが、観光資源としての価値のPRが不足しています

- ・江東区は、水や川の文化の発祥地であるとともに、江戸時代から着々と神社仏閣がつくられ、名所や重要文化財が数多くみられます。
- ・しかし、人を惹きつける観光資源としてのPRは十分でなく、豊富な歴史・文化資源を組み合わせる観光振興を進めていくことが必要です。
- ・また、江東区は観光面で、墨田区など近隣区に遅れを取っており、他区の取り組みも参考にしつつ、江東区オリジナルの取り組みを展開していく必要があります。

■近隣区との連携による広域観光も必要です

- ・観光客は行政区境を越えて行動するため、江東区単独での観光振興の取り組みだけでは限界があります。
- ・特に、本所、深川は、歴史的には向島まで含めて1つの地域を形成していましたが、行政の区割りにより、墨田区、江東区と別の区となった経緯があります。
- ・このように歴史的な結びつきのある区など近隣区と連携して、広域的な観光振興を図っていく必要があります。
- ・また、こうした広域的な連携により、新東京タワーの観光客を臨海部に誘引することも可能となります。

■下町の情緒・伝統を守っていききたいと思います

- ・下町文化の創造や、江戸の地区や本所・深川の歴史を学ぶことにより、下町の情緒・伝統を守っていききたいと思います。
- ・若い人たちにも、下町文化を普及させ、できれば自ら街の文化ガイドができるようになってほしいと思います。

■区民が江東区を十分に理解しておらず、愛していないことが最大の問題です

- ・江東区は良いところが多くありますが、江東区民にも十分に知られていません。また、関心も低いのが実態です。
- ・江東区の観光振興を検討する上では、江東区の住民が、江東区を十分に理解しておらず、また、愛していないことが最も大きな問題であると考えます。
- ・江東区民（新住民含めて）が、江東区をもっと理解し、愛し、誇り持つようにしていくことが必要です。

2. 江東区が目指すべき将来像

(1) 産業・消費生活

(第6回会議で検討)

<キーワード>

- ・陸海空、学職住の近接性、区産区消[※]、IT、CSR[※]、環境、オリンピック
- ・企業、区民、行政、大学

※区産区消：「地産地消」をもとにした造語。地産地消とは、地域生産地域消費の略語で、地域で生産された農産物や水産物をその地域で消費すること。

※CSR (Corporate Social Responsibility)：企業の社会的責任。持続可能な社会を目指すためには、行政、民間、非営利団体のみならず、企業も経済だけでなく社会や環境などの要素にも責任を持つべきであるという考えのもとに成立した概念。

<将来像の例示>

- ・陸・海・空、産業資源をITが結んで開く、花の江東区
- ・学・職・住、大接近、住みよい(水の都)江東区

(2) コミュニティ

(第6回会議で検討)

<キーワード>

- ・コミュニティ、コミュニケーション、異世代交流、町会、マンション自治会、
普段のつながり等

<将来像の例示>

- ・もしもの時に助け合える、日頃のコミュニケーションを大切にするまち
- ・コミュニケーションでつながる明るく、温かいコミュニティのあるまち

(3) 文化・観光

(第6回会議で検討)

<キーワード>

- ・水彩都市、風情、人情、下町情緒、にぎわい、愛、誇り、世界、観光、住民
同士の心のつながり等

<将来像の例示>

- ・ 観光立区～水彩都市江東のにぎわいの創出～
- ・ 世界に誇れる下町情緒の街
- ・ 江東区民がもっと理解し、愛し、誇りを持てる江東区

3. 将来像の実現に向けた取り組みの方向性と具体的事業の

アイデア

(1) 産業・消費生活

①取り組みの方向性

- 地域の特性にあった産業を誘致し、継続性のある産業として育成します
- 地域産業の活性化に向けて、関係主体間の連携を強化していきます

恵まれた産業立地環境や人口増加（都心回帰）を背景として、地域産業の活性化を推進していきます。伝統ある強い中小企業を支援するとともに、オリンピック誘致や築地市場移転を地域活性化の機会（チャンス）と捉え、地域の特徴に合い、テーマ性を持った産業の誘致と、企業の定着化のための施策を推進していきます。

区内に立地する大企業、中小企業、大学等の地域活性化における役割や貢献を適切に評価し、これらの関係主体と、地域、住民、商店街との接点をつくり出すとともに、関係主体間の連携を強化することで、まちづくりや地域産業の活性化に関する新しいアイデアを生み出していきます。特に、商店街には、生活・消費スタイルの細分化や高齢化に対応した身近な買い物環境としての役割がますます重要になっていることから、大学やIT企業との連携による新しい環境づくりや仕組みの導入について検討していきます。

②具体的事業のアイデア

- 地域の特性にあった産業を誘致し、継続性のある産業として育成します
- ◎テーマ性を持った戦略的な企業誘致活動の実施

目的	継続性のある魅力的な企業の誘致と定着
取組主体	区
概要	地域特性に合ったテーマ性のある企業誘致活動を実施し、若い世代にも魅力的な継続性のある産業として育成します。また、そのための都市計画のビジョンを強化します。

■地域産業の活性化に向けて、関係主体間の連携を強化していきます

◎仮想商店街モデル事業

目的	消費者のニーズに対応した商店街における新しい仕組みの提案
取組主体	商店街・中小企業・IT企業・学生
概要	<p>区内の比較的規模の大きい商店街において、中小企業・IT企業・学生との連携により、仮想商店街事業をモデル的に実施します。</p> <p>－学生参加によるホームページ作成支援</p> <p>－閉店後も注文を受けられるシステムの開発</p>

◎区内企業間の受発注を促進するプラットフォームづくり

目的	地域事業者間の受発注の促進による地域経済の活性化
取組主体	区・IT企業
概要	<p>区と区内IT企業の連携により、区内企業間の受発注を促進する情報プラットフォームを構築します。併せて、中小企業間のニーズのミスマッチを解消するコーディネート機関を設置します。</p>

◎区内事業者の環境・地域活動を評価する仕組みの構築

目的	区内事業者による地域貢献活動の適切な評価
取組主体	区
概要	<p>CSR（企業の社会的責任）が求められる中、事業者の環境や地域への貢献を適切に評価し、事業者も地域産業の活性化に向けた役割を持たせるため、事業者による地域活動をポイント化し、事業活動にフィードバックできる仕組みを構築します。</p>

（2）コミュニティ

①取り組みの方向性

- 様々な区民・世代がコミュニケーションできる場をつくっていきます
- 災害時の安心と地域におけるコミュニケーションを確保するための体制づくりに取り組みます

コミュニティの基本はコミュニケーションです。高齢化の進展や大規模災害の発生に備え、もしもの時に助け合える地域コミュニティを目指し、さまざまな世代や区民間のコミュニケーションづくりに取り組んでいきます。

町会・自治会は、地域コミュニティの基本となる組織ですが、江東区では新しいマンションが増加しており、既存の町会・自治会と新しい住民の間、または新しい住民間で

のコミュニケーション不足が問題となっています。このため、地域におけるコミュニケーションづくりの場をつくっていきます。また、様々な世代が交流できる場づくりに取り組んでいくとともに、子育て世代やリタイア世代によるサークルや集まりの場を積極的にアピールできる場をつくっていきます。

さらに、災害時の安心の確保とともに、防災活動を通じた地域におけるコミュニケーションを醸成するため、災害発生時の、町会・自治会など地域コミュニティの役割や、区、警察、消防、病院等の関係機関の役割、連携の在り方や区民の行動指針などの体制づくりを進めます。

②具体的事業のアイデア

■様々な区民・世代がコミュニケーションできる場をつくっていきます

◎地域におけるコミュニケーションの場づくり

目的	地域でのコミュニケーションの促進
取組主体	区民（町会・自治会等）
概要	<p>大規模災害時などもしもの時に助け合える地域づくりのため、日頃からコミュニケーションを図ることができる場や機会を積極的につくっていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> －町会、自治会等の協力による場づくりの広告、宣伝 －定期的な座談会の開催 －フリースペースにおける区の情報掲示板の設置

◎プレーパークの整備

目的	子供の健全な育成・子どもを通じた地域のコミュニケーションの促進
取組主体	区民、区
概要	<p>プレーパークの社会的意義に関する共通認識を形成するため、「（仮称）プレーパーク検討委員会」を設置します。また、プレーパークの整備、管理に向けて、行政と区民がパートナーシップを築けるような支援、条例づくりに取り組みます。</p> <p>参考：プレーパークの先進事例</p> <p>羽根木プレーパーク（世田谷区）、渋谷はるのおがわプレーパーク（渋谷区）、国分寺市プレイステーション（国分寺市）など</p>

■災害時の安心と地域におけるコミュニケーションを確保するための体制づくりに取り組みます

◎(仮称)総合防災パネル会議の設置

目的	災害時の適切なコミュニケーションと安心確保のための体制づくり
取組主体	区、消防、警察、社協、区民
概要	災害時の安心の確保とともに、防災活動を通じた地域におけるコミュニケーションを醸成するため、区、消防、警察、社協、区民より構成される(仮称)総合防災パネル会議の設置し、災害発生時の関係機関の役割分担や、町会、マンション自治会等の地域コミュニティの役割など、いざという時の体制づくりについて検討します。

(3) 文化・観光

①取り組みの方向性

- 観光振興のための体制を構築します
- 江東区の伝統・文化の理解と普及を促進するための観光ツールを開発します
- 観光ホスピタリティ^{*}を醸成していくため、観光教育を導入します

豊富な歴史・文化資源を魅力的な観光資源として活かし、国内外の観光客を対象とした全区的な観光振興に取り組むため、行政サイド、民間サイドともに観光振興のための体制づくりに取り組みます。

また、江東区民自らが、区内の伝統・文化を深く理解し、広く普及させていくことが重要であることから、歴史や文化資源の理解と普及を目的とした歴史カレンダーなど、観光ツールの開発に取り組みます。

特に、これからの江東区を担う若い世代に、区の歴史や観光、文化を正しく理解し、観光ホスピタリティとしての意識を醸成していくため、区の所管である小学校・中学校教育に、観光教育を導入します。

^{*}観光ホスピタリティ：観光客が安心して快適に観光できるように、地域の人々がホスピタリティ（おもてなし）の心で接し、観光客をあたたく迎え入れること。

②具体的事業のアイデア

■観光振興のための体制を構築します

◎観光課の設置

目的	観光振興のための行政サイドの体制の構築
取組主体	区
概要	区全体の観光振興を担う行政サイドの体制を構築するため、現在、経済課の中に設置されている商業観光係を格上げし、分野横断的なプロジェクトチームとして観光課を設置します。観光課には、国内観光客を対象とした施策を担当する国内観光係と、外国人観光客を対象とした施策を担当する国外観光係を設置し、観光庁等関係省庁、東京都、近隣区、関係団体と連携しながら、関係施策を推進していきます。

◎(仮称)江東観光振興協会の創設

目的	観光振興のための民間サイドの体制の構築
取組主体	区民、事業者、区
概要	区全体の観光振興を担う民間サイドの体制を構築するため、深川観光協会と亀戸観光協会の2つの観光協会を1つにまとめ、「(仮称)江東観光振興協会」として再編します。(仮称)江東観光振興協会では、区の観光課と連携のもと、観光ガイドシステムの構築や、観光講師の派遣事業、旅館など観光施設への指導などを行います。

◎地区単位での地域観光組織の設立

目的	地域観光まちづくりの推進
取組主体	区民
概要	地域レベルでの観光まちづくりを推進するため、(仮称)江東観光振興協会の支所組織として、地区単位の地域観光組織を立ち上げます。地域観光組織は地域住民が主体的に運営し、(仮称)江東観光振興協会との連携のもと、観光ガイドの登録や地域観光教育のツールの開発や更新などを行います。

- 江東区の伝統・文化の理解と普及を促進するための観光ツールを開発します

◎江東区歴史カレンダー（年表）の作成

目的	観光教育のツールの開発
取組主体	区民（中学生、関係団体等）
概要	中学校のグループ活動などを通じて、江東区の歴史や名所・名物を取り入れた江東区歴史カレンダーを作成します。歴史カレンダーには、池波正太郎の歴史小説に登場する橋から深川井まで、江東区の歴史や文化に関連する幅広い情報を盛り込み、毎年、掲載情報の追加や更新を行っていきます。

◎隣接区との連携による観光ツールの開発

目的	行政区域を越えた魅力的な広域観光ツールの開発
取組主体	区、区民
概要	墨田区との連携による本所・深川を合わせた観光案内の作成など、近隣区と連携して、行政区域を越えた広域観光パンフレットや観光案内を作成します。

- 観光ホスピタリティを醸成していくため、観光教育を導入します

◎小中学校における観光教育の導入

目的	観光ホスピタリティ、観光教育の導入
取組主体	区（教育委員会）、区民
概要	区の歴史・文化に対する理解と、国内外からの観光客に対する観光ホスピタリティを養うため、区内の小中学校教育に観光教育を導入します。具体的には、江東区歴史カレンダーの授業での活用や、中学生による観光ガイドの実施など実践的な観光教育を取り込んでいきます。

江東区長 山崎 孝明 様

江東区では、新たな基本構想策定にあたり、これからの江東区がめざすべき将来像や、将来像の実現に向けた、区や区民・事業者の取り組みの方向性について、区民の視点から意見を出し合い、検討する場として、江東未来会議が設置されました。

江東未来会議では、私たち 150 人の公募による参加者が、施策分野ごとに 5 つの分科会に分かれ、平成 19 年 9 月 26 日の第一回全体会を皮切りに議論を重ねてまいりました。以降、10 月から翌年 2 月までの 5 か月の間、平日夜間を中心として、各分科会それぞれ 6 回、延べ 30 回の検討を経て、このたび、基本構想への提案として江東未来会議提言書がまとまりましたので、報告いたします。

山崎区長におかれましては、新たな基本構想の策定にあたるうえで、この提案を区民からの意見として受けとめていただき、基本構想策定の一助となるよう「江東区基本構想審議会」に提出願います。

江東未来会議参加者一同

江東未来会議について

1. 江東未来会議について

江東未来会議は、新たな江東区基本構想の策定にあたり、これからの江東区について、区民の視点から意見を出し合い、検討のうえ、江東区基本構想審議会で審議する際の基礎資料の1つを作成することを目的として設置されました。

平成19年7月21日～8月10日の期間に区報等で公募し、20歳以上の区民および区内在勤・在学の方208人の応募があり、地域や年代の構成を勘案して選定された150人が参加しました。

2. 江東未来会議の検討体制

江東未来会議では、区の施策分野別に5つの分科会に分かれ、各分野の

- | |
|-------------------------------|
| ①平成30年代初頭を想定した江東区のめざすべき将来像 |
| ②将来像の実現に向けた、区や区民・事業者の取り組みの方向性 |

について検討しました。

5つの分科会の担当分野、参加人数は以下の通りです。

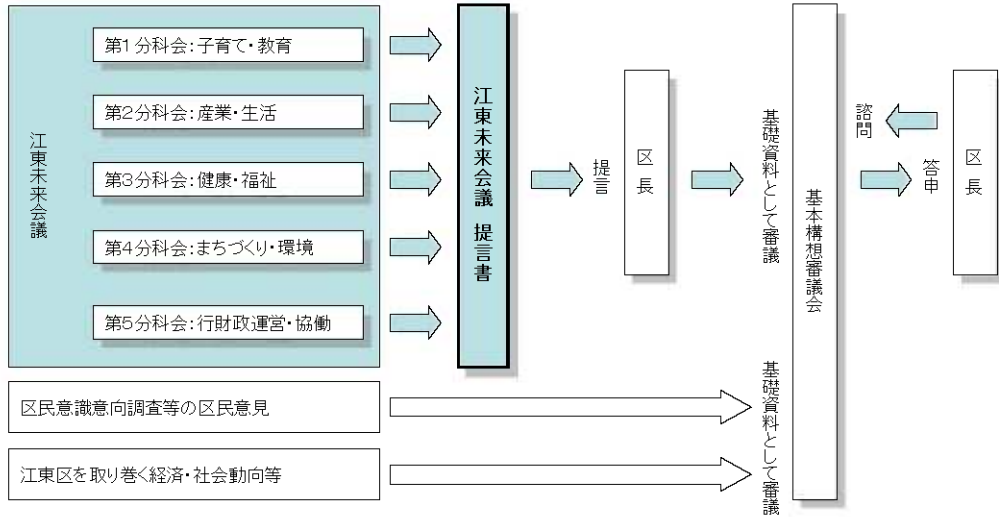
表 江東未来会議における分科会の担当分野

分科会名	担当分野	参加人数
第1分科会 (子育て・教育分野)	教育、児童福祉	30人
第2分科会 (産業・生活分野)	産業・消費生活・観光、コミュニティ、男女共同参画、生涯学習、文化・スポーツ	30人
第3分科会 (健康・福祉分野)	高齢者福祉、障害者福祉、介護、健康	30人
第4分科会 (まちづくり・環境分野)	まちづくり、防災・生活安全、環境、景観・自然	30人
第5分科会 (行財政運営・協働分野)	行財政運営、23区の自治制度、協働・参画	30人

3. 江東未来会議提言書の位置づけ

江東未来会議提言書は、江東区基本構想審議会で審議する際の基礎資料の1つとして、江東区の望ましい将来像とその実現のための取り組みについて、全区的な観点から実現可能性や優先性などを意識し、区民の視点から具体性のある提案を行うために作成したものです。

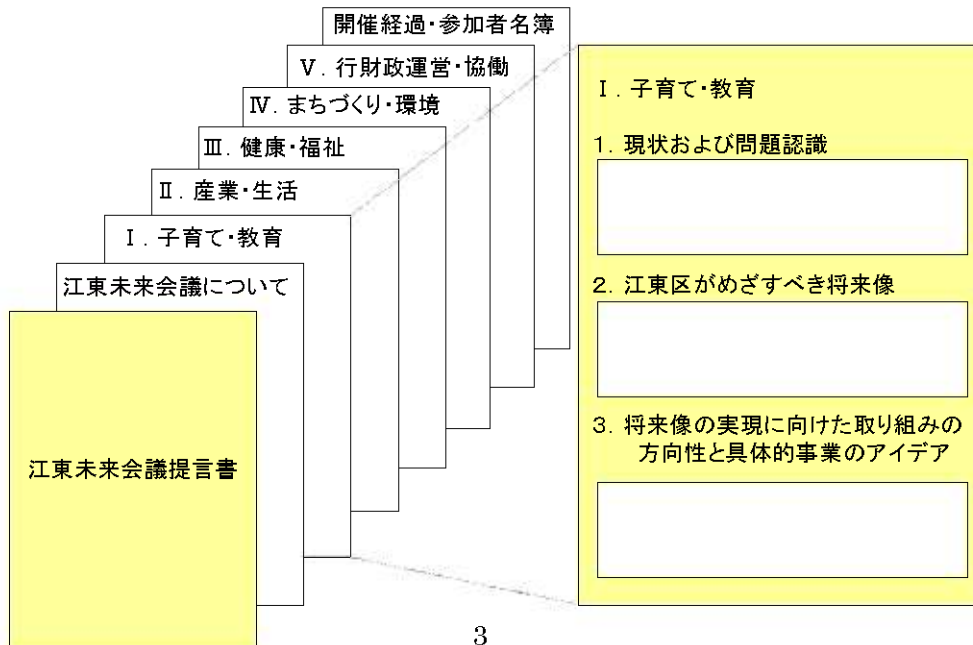
図 江東未来会議の位置づけ



4. 江東未来会議提言書の構成

江東未来会議提言書は、各分科会の検討対象分野に沿った5つの分野で構成しています。各分野の内容は、「現状および問題認識」「江東区がめざすべき将来像」「将来像の実現に向けた取り組みの方向性と具体的事業のアイデア」の3つの共通項目に沿って、各分科会におけるこれまでの検討結果をもとに整理しています。

図 江東未来会議提言書の構成



参考資料

1. 江東未来会議の開催経過

		第1分科会 子育て・教育	第2分科会 産業・生活	第3分科会 健康・福祉	第4分科会 まちづくり・環境	第5分科会 行財政運営・協働
第1回	開催日	平成19年9月26日				
	場所	江東区教育センター1階大研修室				
	検討テーマ	全体会（ガイダンス等） グループ別討議（自己紹介等）				
	参加者	27人	29人	25人	26人	24人
第2回	開催日	10月11日	10月17日	10月9日	10月11日	10月18日
	場所	文化センター 6階第1会議室	文化センター 2階旧区政PRコーナー	庁舎7階 第73会議室	庁舎7階 第73会議室	文化センター 2階旧区政PRコーナー
	検討テーマ	子育て・教育分野における将来像の検討	江東区のイメージと10年後の江東区の検討	健康・福祉分野に関する現状と課題の検討	まちづくり・環境分野における現状と問題認識について	行財政運営・協働分野における将来像の検討
	参加者	23人	23人	22人	17人	24人
第3回	開催日	11月7日	11月7日	11月6日	11月1日	11月9日
	場所	文化センター 6階第1会議室	文化センター 2階旧区政PRコーナー	文化センター 6階第1会議室	庁舎7階 第73会議室	文化センター 2階旧区政PRコーナー
	検討テーマ	将来像の実現に向けた課題の検討	第2分科会で主に取り組むテーマの確認と選定、テーマごとの課題の整理、課題解決に向けた方向性の検討	健康・福祉分野の課題の整理と主要な論点の抽出	まちづくり・環境分野の重点テーマにおける課題について	めざすべき将来像の検討、めざすべき将来像ごとの課題に関するグループ討議
	参加者	22人	24人	18人	18人	15人

		第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
		子育て・教育	産業・生活	健康・福祉	まちづくり・環境	行財政運営・協働
第4回	開催日	11月28日	11月29日	11月27日	11月22日	11月29日
	場 所	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	庁舎7階 第73・74 会議室
	検 討 テ ー マ	将来像の内容及び取り組みの方向性の検討	テーマごとの重点課題の選定、重点課題の解決に向けた検討	主要論点ごとの課題と将来像の再整理、主要論点ごとの取り組みのアイデアの検討	まちづくり・環境分野の重点テーマにおける課題について、まちづくり・環境分野の重点テーマにおける江東区の将来像について	重点テーマごとの課題に関するグループ討議（課題の抽出・整理、施策・事業等の検討）、めざすべき将来像の確定
	参加者	16人	16人	18人	13人	16人
第5回	開催日	12月13日	12月19日	12月18日	12月11日	12月18日
	場 所	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 6階第1会 議室	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー
	検 討 テ ー マ	将来像の実現に向けたアイデア事業案の検討	区の役割と必要な施策（新しいしくみ等）の提案、市（区）民・市民団体、事業者にできること、新しいアイデアの提案	第3分科会としての論点の整理	まちづくり・環境分野の重点テーマにおける江東区の将来像について	めざすべき将来像、課題、施策・事業等の確認、重点テーマごとの課題・施策に関するグループ討議、めざすべき将来像の確定、全体報告・意見交換、分科会全体としての方向性の確定
	参加者	19人	22人	16人	14人	13人

		第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会	第5分科会
		子育て・教育	産業・生活	健康・福祉	まちづくり・環境	行財政運営・協働
第6回	開催日	平成20年 1月31日	平成20年 1月28日	平成20年 1月31日	平成20年 1月29日	平成20年 1月22日
	場 所	庁舎7階 第72（予備 73会議室）	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー
	検 討 テ ー マ					
	参加者					
第7回	開催日	2月22日	2月20日	2月19日	2月19日	2月15日
	場 所	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	文化センター 2階旧区政 PRコーナー	庁舎7階 第72・73 会議室	文化センター 2階旧区政 PRコーナー
	検 討 テ ー マ					
	参加者					
江東未 来会議 発表会	開催日	3月13日				
	場 所	江東区文化センターホール				
	検 討 テ ー マ	提言書発表会 提言書報告				

江東未来会議発表会 実施要領（案）

1. 実施目的

- (1) 江東未来会議による提言内容を広く区民等に周知する。
- (2) 次年度以降の江東区基本構想・長期基本計画の策定に対する区民等の関心・理解を高める。

2. 開催日時・場所

- ・ 3月13日（木）19～21時
- ・ 江東区文化センター ホール

3. 配布資料

- (1) 江東未来会議提言書
- (2) 江東未来会議に参加して（感想集）

4. 周知・広報

- ・ 区ホームページ、区報（3月1日号、3月11日号）等の活用

5. プログラム

- ・ 開催時間は全体を通して120分の予定
- ・ 主に、「提言の発表」「江東未来会議に参加した感想」「提言書の提出」の3項目で構成

○提言の発表（15分×5分科会=75分）

- ・ 各分科会発表者が壇上にて発表（発表者の人数は各分科会で決定）
- ・ 発表後、発表者以外の分科会参加者は、席から立ち、会場に一礼

○江東未来会議に参加した感想（10分）

- ・ 江東未来会議参加者に事前に作成いただく感想シート（第6回時に配布、第7回で回収）の中から、主な感想・ご意見をコーディネーターより紹介

○提言書の提出（5分）

- ・ 分科会発表者より、提言書を区長に提出

※発表される方で都合のつく方は、希望により、発表会当日にリハーサルを行います。

(第7回会議をご欠席される場合はFAX・eメール

・郵送にて2/27(水)までに企画課あてご提出ください)

江東未来会議 参加者感想シートの提出について

提言書の参加者名簿への氏名記載についての希望および、江東未来会議に参加してのご感想について、以下の回答欄にご記入の上、第7回会議時にご提出ください。第7回会議を欠席される場合は、事務局までFAX・eメール・郵送にてご提出ください。(eメールの場合、回答様式自由)

1. 提言書の参加者名簿への氏名記載について

江東未来会議提言書には、巻末に参加者名簿を掲載する予定です。このため、参加者名簿への氏名の記載について、該当する項目に○印をつけてください。同意を得られた参加者の氏名のみを記載いたします。

〈どちらかに必ず○印をつけてください〉

参加者名簿への氏名の記載について	同意する	同意しない
------------------	------	-------

2. 江東未来会議に参加してのご感想について

江東未来会議に参加してのご感想を、下記の枠の範囲内に一言コメントとしてご記入ください。ご記入いただいた内容は、そのまま「江東未来会議に参加して(感想集)」としてとりまとめ、提言書発表会当日に来場者に配布いたします。このため、氏名の掲載を希望されない場合は、欄中に氏名を記入しないでください。

できるだけ文字は大きく、ボールペン等ではっきりとご記入ください。

【問合せ先】

江東区政策経営部企画課

〒135-8383 江東区東陽4-11-28

電話 3647-9111(内線2114~2116)

FAX 3699-8771

eメール kikaku@city.koto.tokyo.jp

氏名(必ずご記入ください)